

退職者などを、ボランティアによる子育て支援者として育成・登録する「子育てサポーター制度」を平成19年度から実施し、身近で気軽に相談や子どもの預かりなどの子育て支援を受けられる体制整備をしていく。

質問 子育て支援者のネットワーク化で子育て力の結集と支援体制の充実を図るとの考えは。

市長 子ども家庭支援センターが中心となり、保育園や児童館、地域子育てセンター、社会福祉協議会などの「地域の子育て支援の拠点間の連携」を強化し、ネットワーク化を図っていく。

◇高齢者のくらしを守る施策を
◇学校教育について

なかほら まさゆき
中原 雅之 議員

高齢者のくらしを守る施策を

質問 老年者控除の廃止、公的年金控除の縮小、定率減税の縮小等による市税収入増見込みは。

市長 65歳以上の個人市民税の増加は平成17年度と18年度の比較で約一億円。

質問 国保税の高齢者負担増は。

市長 年金収入のみの一人世帯で年金収入300万円の場合、年額8千500円増。

質問 高齢者の負担増や消費税増税など行わないよう、国・都に要請を。

市長 現段階で考えていない。

質問 増税などによる増収分で高齢者のくらしを守る施策を。

市長 高齢者対象の社会保障費は年々増加し、税制改正による増収分を上回っている。社会保障制度を持続可能な制度として運営していくことが高齢者の暮らしを守ることにつながる。

学校教育について

質問 学校アンケートでの主な要望は。

教育長 「校庭のトイレは洋式に」「PTAのバトロール等の活動は共働き家庭には大変」「子どもにあった授業の進行を」など多岐にわたっている。

ゴミ・タバコの吸い殻のポイ捨て禁止条例について

質問 小さな廃棄物、犬猫のふん尿適正処理の取り組みは。

市長 モラル向上が最も重要であり、広報等により随時啓発に取り組み、市内の美化を図っていききたい。

質問 都道のゴミについて東京都への

要請を望むが。

市長 今後も密に連絡をとり、迅速な対応を図っていく。

質問 ポイ捨て禁止条例の制定については。

市長 今後、他の自治体の事例等を研究していききたい。

質問 近隣自治体との連携は。

市長 情報交換し研究する。

質問 学校でのさまざまな問題にきめ細かに対応するために、スクールカウンセラーの常時配置、学習サポーターの増員が必要と考えるが。

教育長 近年、児童・生徒を取り巻く教育環境はいじめ等様々な問題があり、小・中学校の相談体制の強化が望まれている。今後、一層の教育相談事業の充実に努めていく。

質問 羽村市として少人数学級を実施すべきでは。

教育長 現在の少人数指導の教員加配や学習サポーターの配置など、側面からの学習指導体制の支援で対応していく。

質問 学校や教職員組合からの具体的な要望への対応は。

教育長 ヒアリング、現場確認を行い、より効果的対処施策を検討し予算化を図っている。



▲休み時間の校庭(富士見小)



▲福生消防署羽村出張所

東京都火災予防条例が改正され平成18年6月1日から施行されている。平成18年においても死傷者を伴う住宅火災が相次いで発生し、死亡者が急増していると言われている。このような現状を市民に理解していただくために、次の事について伺う。

◇住宅用火災警報器設置の推進と設置費助成について

佐藤 征一 議員

質問 条例改正の概要についてどのような方法で市民に知らせるのか、また、その回数について伺う。

市長 平成18年6月1日号の「広報はむら」紙面1ページを使用し周知するとともに、7月には各種の住宅用火災警報器を庁舎玄関ロビー及び市民生活安全課カウンターに1カ月間展示した。

質問 住宅用火災警報器を1日でも早く普及させるために、さらなる広報活動と相談窓口の充実が必要と思うが市の考えは。

市長 福生消防署でも普及促進の広報活動を強化するが、市としても、広報はむらやホームページ、各種イベントなどを通じ火災警報器の設置がさらに進むよう取り組んでいきたい。

質問 安心、安全の街づくりの構築において住宅用火災警報器の普及が大事な要素と考える。

1日も早く1台でも多く住宅用火災警報器の設置を推進するために、設置

◇羽村市国民保護計画素案について
◇市内の藤棚はなぜ花を咲かせないのだろう

菱田 檜樹 議員

国民保護計画素案について

質問 この保護計画は、一度には態勢は整わない。努力優先順位はどう考えているのか。

市長 計画策定後は、特にその重要性のため、市民、地域の団体、事業者等の皆様に對し、全般に渡り継続的に啓発を行っていく。

質問 訓練にあたっては、市の防災訓練と有機的に連携させるのが効果的と思うがどうか。

市長 どちらの訓練も多くの部分で共通の内容となるのが考えられることから、防災訓練と国民保護の訓練を連携して実施し、ご指摘のとおり、市民に周知していきたい。

質問 想定する事態では、多くの人はパニック状態となる。安否情報の収集、整理及び提供についてどう考えているのか。

市長 計画素案においても、想定する事態が発生した場合の安否情報の収集・提供は、市の重要な実務として位置付けている。

安否情報の提供にあたっては、照会窓口を設置するとともに、携帯電話、インターネットなど、あらゆる手段を利用して、提供に努めていく。



▲防災訓練での様子(平成18年9月)

市内(富士見公園)の藤棚はなぜ花を咲かせないのだろう。

質問 立派な羽村の藤を夢見たいが

費助成制度を設ける考えはないか。

市長 多くの市民が自ら購入し設置を行っている。自分の身は自分で守るという考え方が根付きつつある流れを尊重し、「設置助成制度」を設ける考えはない。

しかし、住宅用火災警報器は、自分自身や家族の命を守るために大変有効な機器であることから、減災社会の実現のため、より一層設置が進むよう市民への周知など積極的に取り組んでいきたい。

◇コミュニティバス「はむらん」の運行について
◇医療費助成を中学3年まで拡大へ

露木 諒一 議員

「はむらん」の運行について

質問 「はむらん」運営推進懇談会ではどのような意見、要望が出ているか、またその検討結果は。

市長 意見、要望はコースの延長、運行時間の延長、バス停の改良などであり、検討の結果「小作駅東口への乗り入れ」「福祉センターへの乗り入れ」「玉川町内への乗り入れ」などが提案された。

質問 「はむらん」の利用状況は。

市長 運行開始前の利用予想人員は、1日206人だが、現在では1日約300人、運行開始から延べ15万3千人

が利用している。羽村東コースが約6万3千人、羽村西コースが約5万人、小作西コースが約4万人となっている。

質問 公立福生病院への運行については利用者も多い。同病院では変則的に一部の外来診療も開始した。午前だけでなく午後にも運行するようにしたらどうか。

市長 通院される方の利便性の向上や新病院建設後の診療内容等を考慮し、今後、運行時間の変更について検討していく。

質問 羽村東コースは利用者も多く、

増便すべきではないか、また、双葉町二丁目で迂回しているが、双葉町三丁目まで延長すべきと考えるがどうか。

ネットはどこにあるのか。

市長 以前にも同様の質問を受け、樹木医でもある専門家を招き、剪定の実技を含め、藤の管理に関する講習を担当職員等に受けさせた。

しかし、今年が多摩各地で藤の花が少なく、その原因ははっきりしないが、藤は前年の夏に芽ができ始めるため、その時期の気象に左右されるとのことです。6月の小雨と7月の低温が原因の一つと考えられる。

いずれにしても、今後とも一つでも多くの花が咲くよう管理に努めていく。

また、双葉町三丁目への延長については、現地の実態等を調査し検討していく。

質問 「シルバーバス」の利用や観光目的の乗客のために「1日乗車券」の発行等の検討は。

市長 料金体系が通常の路線バスと異なるため精算が難しいことなどから、シルバーバスの利用は難しい。1日フリーバスや月極めの定期券等については、利便性の向上や利用者増につながることを期待できるので、今後検討していきたい。



▲「はむらん」を待つ利用者たち(フレッシュランド西多摩)

◇羽村市動物公園にトイレの増設を
 ◇障害者（児）の福祉の増進を図るために
 ◇横田基地へのミサイル配備計画は撤回を

たかはし
 高橋 美枝子 議員



▲トイレのひとつ(動物公園)

動物公園にトイレの増設を
質問 子ども用、障害者用も含め、十分なトイレの配置を。
市長 動物公園にはトイレを4カ所、障害者用のトイレはそのうち2カ所に配置している。今後は動物公園の施設改修計画に基づき、優先順位を定め検

討していく。
障害者（児）の福祉の増進を図るために
質問 障害を持つ人が、人間らしく生きるために受ける施策は「益」ではないか。応益負担の撤回を求めるべきではないか。
市長 定率負担の導入はやむを得ないと考え、低所得者への各種配慮や、どの程度の負担が適正かという点については、国民的な議論が必要と思う。
質問 応益負担の導入による利用者負担の総額は、厚生労働省の試算で約860億円だという。公費負担のしくみも、区市町村は2分の1から4分の1負担に変更になっている。羽村市ではどれだけ負担が減ったか。
市長 試算で市の負担が約3千万円程度減少すると予想される。
質問 就労支援の促進を。
市長 現在、障害福祉計画の審議の中で、「就労移行支援事業」などについて検討を行っている。

◇第四次長期総合計画後期基本計画について

もんま
 門間 淑子 議員

文化芸術関連施設について

質問 「建設計画案を策定」とあるが、施設建設の決定をしたのはいつか。規模・予算・予定地はどうなっているか。
市長 中里介山記念館や市内出身芸術家の作品展示等の施設建設について検討することを計画したもので、内容・規模・予算・予定地は検討していく中で判断する。

教育課題について

質問 小・中一貫校設置の検討はどのように進められるのか。
教育長 羽村市立小・中学校一貫教育校検討委員会を設置し、先進地域の資料収集や視察、専門分野の講義などを通して現状把握をしている。平成18・19年度で、小・中一貫教育の基本理念、就学に関すること、学年区分、教育課程、学校選択制など、多岐にわたる事項について検討し一定の方向を定めていく。
質問 各小・中学校にスクールカウンセラーを常駐させてはどうか。



▲羽加美4丁目付近

教育長 中学校には臨床心理士を週1回8時間派遣し、小学校には教育相談員を週1回4時間派遣し、学校のカウンセリング等の機能の充実を図っている。常駐については、都や国の動向を注視していきたい。

自然環境の保全について

質問 緑被率が28%となっているが、